



湯沢市ビジネス支援センター

ゆざわ - Biz

湯沢市ビジネス支援センター

2022年

3年目活動報告書

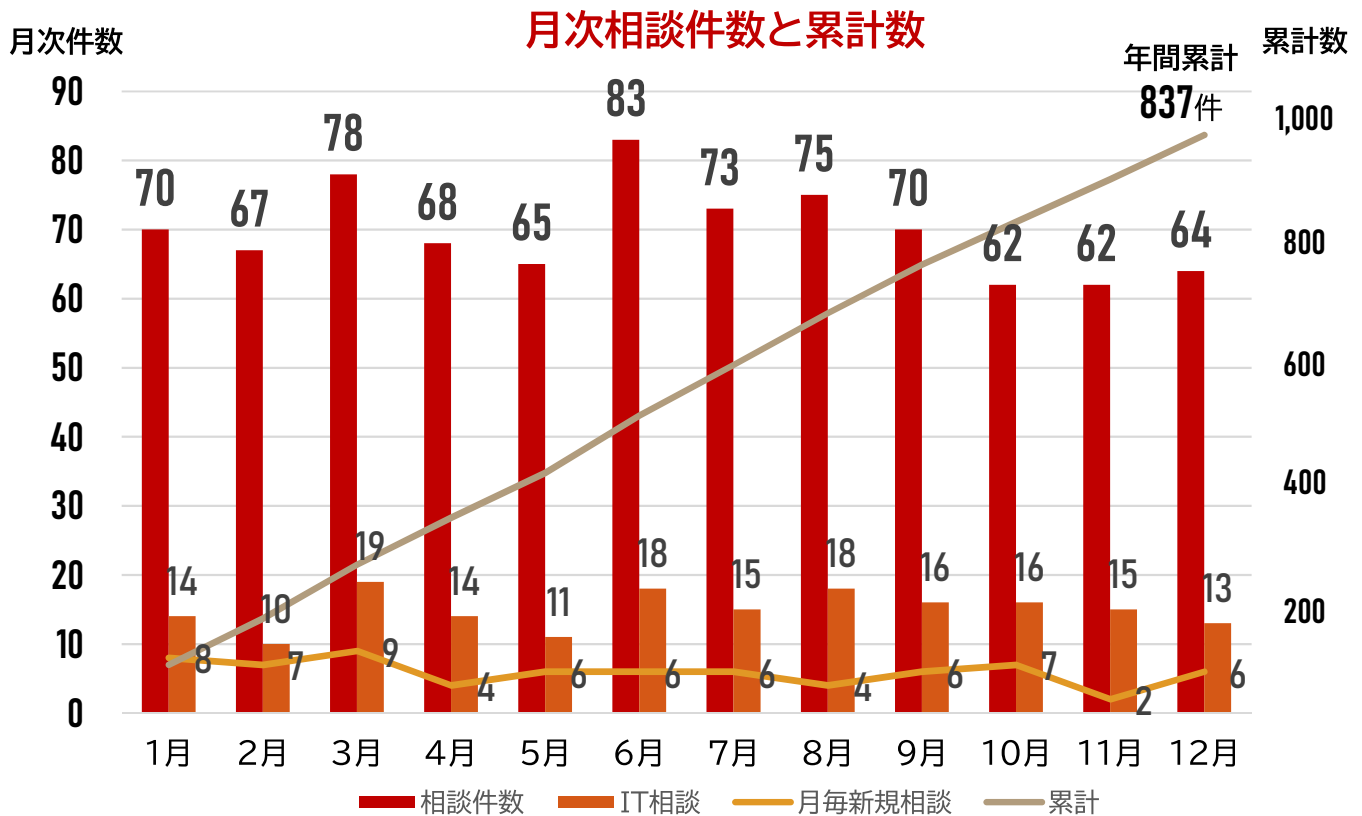
目次

年間相談件数／リピート率／相談対応の満足度	1
相談内容／相談で事業に前向きになれたか／業種別割合／創業支援	2
センターの運営体制	3
セミナー実施／メディア掲載／講演活動	4
ビズの取り組み／創業・開業支援スペース「ゆざわ-Biz ハッチ」の開設	5
相談事例	
新商品・新サービス開発	6
事例(1)女性スタッフの声をヒントに新メニュー「和のサンドイッチ」を開発	7
事例(2)地域の事業者を巻き込んだ経営支援 飼い主さんのための「ペット終活」	8
事例(3)本人が気づいていない価値を発見して集客UPを図る	9
事例(4)開店準備に必要なことを伴走でサポート 創業支援	10
事例(5)地域を越えた連携商品 山形市のカフェでプライベートブランド	11

年間相談件数

837件

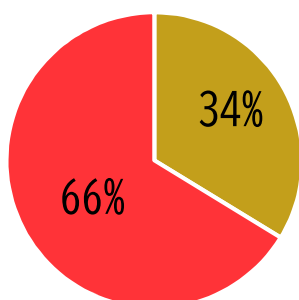
2022年は、新型コロナウイルス感染症の影響が長引いたほか、ロシアによるウクライナ侵攻等による物価高も加わり、事業者全体にとって依然として厳しい経営環境が続きました。そうした中、ゆざわ-Bizへの相談件数は毎月70件程度で推移し、年間の相談件数は837件となりました。



リピート率

66%

2020年1月の開設以来、初回相談から継続的に2回以上利用している事業者の割合(リピート率)は、約66%となります。



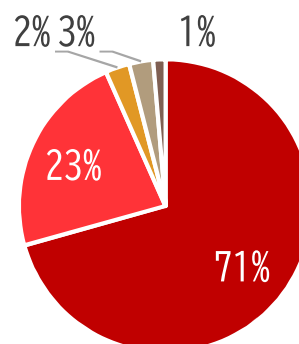
相談回数

- 1回
- 2回以上

相談対応の満足度

94%

相談に来る事業者へのアンケート調査結果では、71%が「満足」、23%が「やや満足」と回答。全体の約94%が対応に満足した結果となりました。



- 満足
- やや満足
- どちらとも言えない
- やや不満足
- 不満足

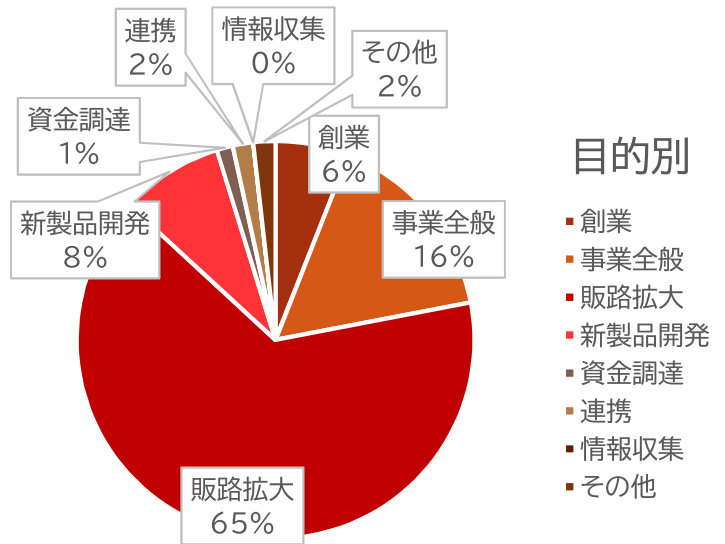
相談内容

販路拡大

事業全般

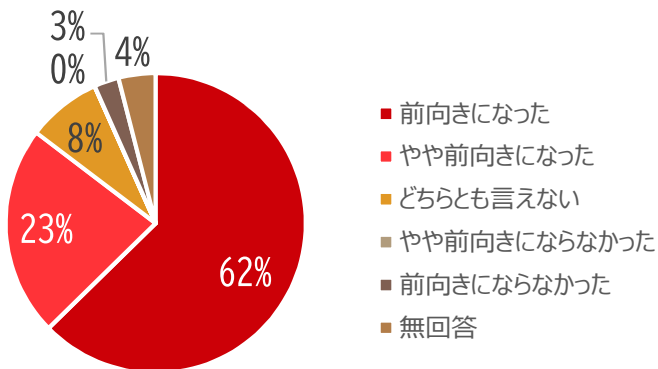
65% 16%

相談に来た目的としては、全体の65%の事業者が「販路拡大」や「売上アップ」といった内容でした。そのほか、事業全般に関する相談も、全体の16%を占めました。



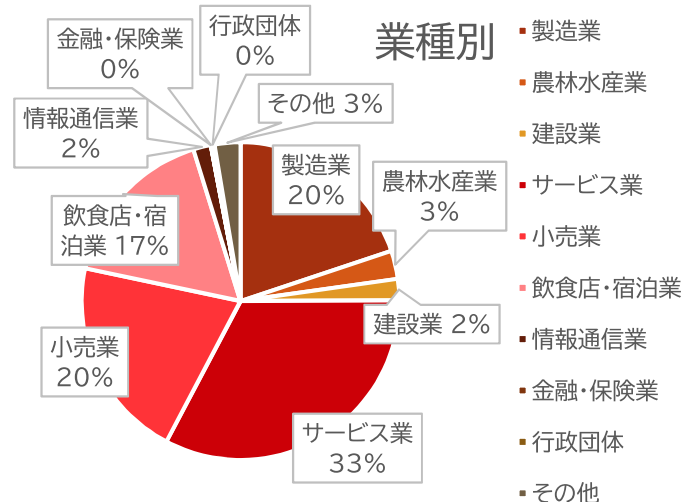
相談で事業に前向きになれたか

85%



業種別割合

相談に来た業種は、サービス業が33%で、製造業(20%)、小売業(20%)と続きました。



創業支援



中華料理店 Chinese Kitchen MARO

新型コロナウイルス感染症の影響が続いたほか、ウクライナ侵攻等に伴う物価高も問題となった2022年でしたが、ゆざわ-Bizでの創業相談から新規店舗が誕生しました。ゆざわ-Bizでは、創業の際の資金調達を含めた事業計画の策定や、創業時のコンセプトデザインなど、幅広い支援を行っています。



センター長(常勤) 藤田敬太

一橋大学経済学部卒業後、読売新聞東京本社で記者として約10年勤務。その後専門商社の役員や産業用カメラ技術商社の代表取締役として活動し、新規事業の創出から、財務管理や人事、取引先との交渉など多方面で会社の経営を行った。

2015年に地方ゼネコンのベトナムでの法人設立に携わり、現地法人長として、新規事業の開発を同国で行った。同国では、現地の金融機関であるVietnam Maritime Commercial Joint Stock Bankにも参画し、外国直接投資部の顧問として、外資企業や金融機関の誘致戦略を日本企業の視点からアドバイスを行った。

2019年10月1日 湯沢市ビジネス支援センター ゆざわ-Biz センター長就任。



ITアドバイザー(毎週水曜日) 飛塚嗣公

T-Solutions株式会社代表取締役

福島県出身、山形県在住。多店舗展開するスーパーの精肉部に勤務し、店舗マネージャーとしてマネジメント及び仕入れ、加工業務に従事。その後、IT関連企業にて営業兼エンジニアとしてサーバー、ネットワーク構築業務に従事したのち、大手SIerのシステムエンジニアとして主に鉄道、航空といった輸送系の社会インフラの構築を行う。

「新しい働き方と未来を創るしごと」をするために2015年8月に起業。T-Solutions株式会社を設立し、テレワークを推進するサービスの展開や、在宅ワーカーを活用した業務請負事業を行っているほか、キッズプログラミング教室事業も行っている。

2020年7月 湯沢市ビジネス支援センターゆざわ-Biz ITアドバイザー就任。

事務員1名

市産業振興部商工課担当職員

日々相談に訪れる事業者の相談案件の管理や、相談件数の管理や抽出などの事務作業といったバックオフィス業務は、事務員1名と市商工課の担当職員が行っています。

ゆざわ-Bizのような「ビズモデル型支援拠点」は全国17の自治体で実施されています(2022年12月末現在)。

全国の事例を見ると、地域の商工団体等で作る協議会や、民間業者に運営を委託している自治体がほとんどですが、ゆざわ-Bizは湯沢市が直営していることが特徴です。

そのため、ゆざわ-Bizを通して、事業者が抱える課題や市内経済の動向を把握し、市が行う他の産業支援事業にも生かしています。

セミナー実施

2022年、ゆざわ-Bizでは講師を招き、市内の事業者を対象とした「無料セミナー」等を計7回実施しました。そのうち4回はオンラインでの開催となりましたが、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、3回は会場で参加者が集まって行う従来型のセミナー開催となりました。

「知的財産とデザイン」
中小企業の競争力をUP!
2022年3/4日
参加費 無料
主権 ゆざわ-Biz
開催方法 オンライン
定員 無制限

知的財産とデザイン

「土壌改良&情報発信」
農業の売上UPのヒントを探る
2022年3/24日
参加費 無料
主権 ゆざわ-Biz
開催方法 オンライン
定員 無制限

土壌改良&情報発信

「ゆざわ-Biz ハッチ」
2022年4月1日 OPEN
2022年4/1日
参加費 無料

創業セミナー

「検索されるホームページの「秘密」教えます」
2022年4/26日
参加費 無料
主権 ゆざわ-Biz
開催方法 オンライン
定員 10名

検索されるホームページ

「創業セミナー&相談会」
第2回
令和4年6月19日
参加費 無料

創業相談会

「求人票の作り方」
ハローワーク活用術
2022年9/29日
参加費 無料
主権 ゆざわ-Biz
開催方法 オンライン
定員 無制限

求人票の作り方

「ふるさと納税返礼品」
「選ばれる返礼品」のヒントを探る
2022年10/20日
参加費 無料
主権 ゆざわ-Biz
開催方法 オンライン
定員 無制限

ふるさと納税返礼品

セミナーのテーマは、農業分野から創業、ふるさと納税など、事業者のニーズに合わせた多岐に渡るテーマで開催し、中には30名近くの参加者を集めた回もあり、好評でした。また、知的財産とハローワークでの採用術をテーマにしたセミナーでは、東北の Bizモデル型支援拠点である山形市売上増進支援センター(Y-biz)や気仙沼ビジネスサポートセンター(気仙沼Biz)の相談事業者にもセミナーを開放しました。

メディア掲載

相談を通じて完成した新サービスや商品などの情報を、相談事業者の希望に応じて、ゆざわ-Biz経由で報道各社にプレスリリースとして配信しています。2022年も前年に引き続き、ゆざわ-Bizの支援事例が多く新聞やテレビで取り上げられ、注目を浴びました。

「仏壇手軽にレンタル」
「料亭の味 サンドで」
2022年4月6日 読売新聞

講演活動

2022年は、藤田センター長が講師として招かれる機会が8回ありました。市議会や商工団体、中学校、自治組織等、様々な場所で講演を行いました。そのテーマも、地域活性化やアフターコロナに向けた施策についてなど、多方面に及びました。



市議会での講演の様子(2022年3月15日)

情報発信サポート 通称「ビズラック」



ゆざわ-Bizでは、相談に来る事業者の情報発信の手段として、チラシの作成をサポートしています。しかし、事業者からは「チラシを作ってもどこに置けばいいのかわからない」という声も多いため、2020年12月から、市内の「人が集まる」事業所の協力を得て、パンフレットラックの設置を始めました。「～近場の魅力発見～ゆざわ-Biz発 地元の“いい店”情報ステーション」と名付けた「ビズラック」は、当初5か所に設置されていましたが、市内外の事業所の協力により、現在では9か所に増え、相談事業者の情報発信の場が拡大しています。

【設置箇所】

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 道の駅おがち「小町の郷」 | 秋田銀行湯沢支店 |
| ニュー千寿苑 | 北都銀行湯沢支店 |
| イオンスーパーセンター湯沢店 | 湯沢郵便局 |
| ビフレ湯沢店(2023年1月まで) | 雄勝中央病院(2023年2月から) |
| スーパーモールラッキー(横手市) | |
| yado & kissa UGO HUB(羽後町) | |

創業・開業支援スペース「ゆざわ-Bizハッチ」の開設

湯沢市では、市内創業の支援を強化するため、2022年4月1日、ゆざわ-Biz内に「創業・開業支援スペース ゆざわ-Bizハッチ(通称・ハッチ)」を開設しました。ゆざわ-Bizでは、開設当初から創業相談が多く、相談者からは創業の際に「何から手を付ければいいのか分からない」「じっくり考えたり、準備したりできる場所が確保できない」という声も多くありました。そこで、公共のインキュベーションセンターとして、創業・開業を考えている方のために、フリーWi-Fiを備えたコワーキングスペースを開放する「ハッチ」を開設しました。

ハッチは、英語のhatchを語源とし、「(ヒナや卵を)孵化させる」という意味を持ちます。創業を考えている方のアイデアの「卵」をゆざわ-Bizで一緒にふ化させて世に出していくお手伝いをしています。

毎週金曜日には、事業の立ち上げや経営ノウハウに関する相談に藤田センター長が対応もしています。

そのほか、創業セミナーや創業相談会も開催し、2022年はこれまで以上に創業支援に力を入れた1年となりました。



新商品
新サービス
開発

2022年も、ゆざわ-Bizの相談から新たな商品やサービスが誕生しました。ゆざわ-Bizでは、事業者が持つ「強み」を磨き、消費トレンドに沿った新商品や新サービスをリリースすることや実際に販売をしたりマーケティングをしたりする際のお手伝いしています。



道の駅おがち「小町の郷」
寒天バー

令和7年度に、東北中央自動車道の一部区間となる横堀道路が開通するのに合わせて、インターチェンジの役割を果たすことになる道の駅に、新たな「名物」をつくらうと、県南独自の食文化の「惣菜寒天」を提供するコーナーを設置。



鈴木又五郎商店
玄米パンケーキミックス

子供たちの「米ばなれ」が進む中、朝食などで気軽に玄米の栄養素を摂ってもらおうと開発した「玄米パンケーキミックス」。マーケティングの際にはクラウドファンディングを使用し、そのコンテンツ作成をサポートしました。

仏壇 手軽にレンタル



短期利用、経済負担軽く
店舗展示している仏用品のうち高さ約70センチの仏壇を販売し、仏壇は小物で済ませる。今後は小物でも、お盆やお彼岸に必要とする仏壇を、レンタル期間で利用したいというニーズに応える。同じように、仏壇のレンタルは東北では珍しいという。

近年、若い世代を中心に、仏壇を置く家庭が減少している。また、仏壇を置く場所が狭くなる一方、家賃が高騰している。お盆やお彼岸に必要とする仏壇を、レンタル期間で利用したいというニーズに応える。同じように、仏壇のレンタルは東北では珍しいという。

沓良仏壇漆器店
仏壇レンタル(Rentaぶつだん)

仏壇がない家庭に必要なに応じて短期レンタルするサービス「Renta ぶつだん」をサービス化。一般家庭で仏壇がある家が減少するなど消費者の生活スタイルが変化中、消費者の潜在需要に合わせた業界では極めて珍しい短期レンタルを開始。



似顔絵こけし
我流慕

両親や祖父母に、誕生日や父の日、母の日などの記念日に似顔絵を紙に書いて贈ることが多いことに着目し、子供が書いた似顔絵を持ち込んでもらえば、レーザー彫刻の技術によって、その絵をこけしの顔に彫刻で転写する「似顔絵こけし」をサービス化。

事例(1)

女性スタッフの声をヒントに
新メニュー「和のサンドイッチ」を開発

事業者名: 日本料理 福富
業 種: 飲食店

相談内容

新型コロナウイルスの影響による外出自粛で、大人数が集まる大規模な宴会需要が減少した一方、お昼をはじめとした弁当のテイクアウトが堅調だったことから、集客UPのための「新しいテイクアウトの商品をつくりたい」とゆざわ-Bizに相談に訪れました。



提案内容

ゆざわ-Bizでは、同店で働く女性からの「まかないの際はご飯ではなく、たまにはパンがいい」という声や「弁当にご飯ではなくパンはないか」という女性客の声をヒントに、和の食材をパンにはさんでサンドイッチにするという今回の商品化に至りました。当時、「だし巻き卵」など和風な食材を挟んだサンドイッチはありましたが、料亭が本気で作った日本料理を挟んだサンドイッチはありませんでした。同店で試作を重ね「鮭の麹漬、ビッグマッシュルームとちりめん山椒」など本格的な日本料理の要素がたっぷり入った「料亭がつくる和の三色サンド」が出来上がりました。



2022年4月6日 読売新聞

結果

発売開始から、注文が殺到し、一時は「予約待ち」の状態に。売上がUPしただけでなく、このサンドイッチを機に、これまで同店を利用していなかった新しいお客さんからの注文も入るようになりました。ハロウィンのシーズンには、期間限定で黒い食パンとかぼちゃを練り込んだ特別なサンドイッチの商品化にもつながりました。

事例(2)

地域の事業者を巻き込んだ経営支援 飼い主さんのための「ペット終活」

事業者名: 仏壇と墓石の宝輪など7社

テーマ: 新たなマーケットの創出

相談内容

仏壇と墓石の宝輪では近年、人間の墓石だけでなく、小型のペット用の墓石も販売しています。まだ認知度はそこまで高くなかったため、「どのようにしてPRをしていけばいいか」とゆざわ-Bizに相談に訪れました。



提案内容

年々長寿化が進むペットたちに向けて、人間のシニアと同じようなサービスが出始めています。しかし、人間では人生の最期に向けて行う活動である「終活」が市場として存在しているものの、ペット向けのお墓や仏壇があるのに、「ペット終活」という市場はまだ確立されていません。「ペットの看取り」や「長く元気に暮らす」ためのペット向けのサービスを提言している事業者が湯沢市で多かったこともあり、ゆざわ-Bizでは、ペット供養で有名な湯沢市の誓願寺で、飼い主のための「ペット終活」のイベントを開催してはどうかと提案しました。



結果

事業者は、仏壇と墓石の宝輪のほか、シニア犬向けのトリミングを提供する事業者や、宮城県気仙沼市からペットの葬送衣を販売する会社のほか、山形市からも飼い犬を偲ぶレリーフを作成する会社も参加。当日は湯沢市内からはもちろん、宮城県や山形県からも来場者が来て、実際に商談に結びついた事業者もいました。

事例(4)

本人が気づいていない価値を発見して 集客UPを図る

事業者名:スター代行
業 種:運輸業

相談内容

要介護者や体の不自由な人たちが気軽に利用できる、車いすなどがスムーズに積載できる「介護タクシー」の事業を新たなものの、PRをどうしていいかわからず、事業開始後に集客がほとんどできずに困ってゆざわ-Bizに訪れました。



提案内容

ゆざわ-Bizではまず、相談に訪れた代表の高橋正光さんから丁寧にお話を聞くところから始めました。介護タクシーの仕組みや、高橋さんがこの事業を始めたきっかけなどを細かく聞いたところ、①高齢化や過疎化が進む秋田県内には介護タクシーの潜在需要はあるものの、県民にあまり知られていない②高橋さんが事業を始めたきっかけは、介護タクシーがまだ少なく、奥さんが亡くなる際にすぐにタクシーを呼べなかったという自分の苦い経験がもとだったこと—だということがわかりました。ゆざわ-Bizでは、介護タクシーに対する県民の認知度をあげるため、高橋さんが事業を始めたきっかけなどを盛り込んだ、プレスリリースの発行を提案しました。



結果

介護タクシー自体に社会的なニーズがあったことと、高橋さんの事業を始めたストーリーに信念があったことで、新聞やテレビなど数多くのメディアが介護タクシーのことを取り上げ、結果的に県民に幅広く認知されたことで、集客の大幅増につながり、介護タクシーの事業は無事、軌道に乗りました。

事例(3)

開店準備に必要なことを伴走でサポート 創業支援

事業者名: Chinese Kitchen MARO

業 種: 飲食店

相談内容

創業36年の湯沢市の老舗ラーメン店「ラーメン直太郎」。東京や横浜などで本格中華料理の修行を積んだ創業2代目の中込力磨呂さんは、「湯沢市の人にもぜひ本格的な中華料理を食べてもらいたい」という思いで湯沢市へUターンし、創業を計画しました。



提案内容

昼はこれまで通りラーメン直太郎をそのまま創業初代の父親と続け、同じ場所で夜は、「Chinese Kitechen MARO」として、「よだれ鶏」「四川麻婆豆腐」など痺れと辛みのある四川料理から、本格的な広東チャーシューなど中華四大料理の代表的なメニュー網羅する本格中華店を開く計画です。ゆざわ-Bizでは、開業までに時間があつたことから、中込力磨呂さんにお店の中で提供する食事やお酒など、こだわりを聞いたうえで、お店のコンセプト作りから、無料ツールでのお店のホームページの作成、そして店内のメニュー表をつくるまで、ワンストップで支援を行いました。



結果

こだわりが詰まったお店は、開店から好調で、幅広い年齢層のお客さんの来店に結び付きました。昼の営業のラーメン直太郎では、新たに中込力磨呂さんの中華料理を組み合わせた新メニューや、女性を意識したランチセットなどの提供も始め、新たな顧客獲得に結び付きました。

事例(4)

地域を越えた連携商品 山形市のカフェでプライベートブランド

事業者名:あお葉フーズ、稲庭うどん販売
業 種:食品製造業

相談内容

ゆざわ-Bizと同じ「ビズモデル型支援拠点」の山形市売上増進支援センター(Y-biz)の相談者で、カフェを経営する山形市内の会社から、「山形にない商品でプライベートブランドをつくりたい」との相談があり、ゆざわ-Bizで、OEMの製造ができる湯沢市内の事業者の連携をはかりました。



提案内容

今回の山形市の「アンドマークカフェ」の要望は「食卓に並ぶ商品や気軽に手に取れる食べ物をプライベートブランドとして販売したい」というものでした。ゆざわ-Bizでは、OEM製造の実績が豊富な、ドレッシングやジャムを製造する「あお葉フーズ」と、薄くてパリパリとした食感が好評のかりんとうを製造する稲庭うどん販売を紹介しました。湯沢市内の2社との連携により、「アンドマークテーブル」と銘打ったプライベートブランドでドレッシングやジャム、フルーツかりんとうが商品化し、山形市内の同店の販売コーナーで発売を開始しました。



結果

カフェに訪れる女性を中心に、プライベートブランドは売れ行きが好調でした。特に、ドライフルーツや果汁をふんだんに使った「フルーツかりんとう」は、同店と併設するCD・DVDレンタルショップ内の雑貨コーナーで人気の商品となっています。



湯沢市ビジネス支援センター

ゆざわ-Biz

ゆざわ-Bizでは毎日情報発信中です！



Facebookにぜひ
「いいね！」を

ホームページ
サポートブログで
相談者情報を
発信中！



湯沢市ビジネス支援センター 3年目活動報告書 2023年5月

作成:

湯沢市ビジネス支援センター

〒012-0841 湯沢市大町2-1-60

TEL:0183-56-7117

E-mail:info@yuzawa-biz.jp

湯沢市産業振興部商工課商工労政班

〒012-8501 湯沢市佐竹町1-1

TEL:0183-55-8186

E-mail:shoko-rosei-gr@city.yuzawa.lg.jp